

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および1月26日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は、回復期リハビリテーション病棟を有する病院として開院された。開院以来、脳卒中をはじめとする脳・脊髄疾患に対するリハビリテーションを中心として、仙台市や富谷市、宮城県北部の患者の受入体制を充実してきた。近年は、特に高次脳機能障害の評価や患者の就労支援、自動車運転評価などにおいて、地域における中心的な役割を果たしている。

今回の高度・専門機能受審を契機に、退院後の医療と介護・福祉サービスの連携に注力することを病院の主要な方針と定め、そのための地域ネットワーク作りに注力されている。回復期と生活期のシームレスな連携を実現する地域の中核的なリハビリテーション病院として、さらなる発展を期待したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

回復期リハビリテーション病棟の理念や基本方針は、退院後の医療と介護・福祉の連携を強化することを謳っており、ホームページやパンフレットを通じて、院外に周知されている。365日充実したリハビリテーション・ケアを提供するための専門職がリハビリテーション科専門医を含めて十分に確保されている。業務改善のための病棟運営会議も実効的に動いている。

安全確保に関しては、アクシデント・インシデント報告を集約して対策の確認・検討が行われているが、病院組織全体の医療安全意識を高め、報告件数の増加に向けた工夫などの検討を期待したい。医療関連感染制御体制は感染対策委員会が整備され、月1回開催されている。病院の課題を把握し、実現に向けて情報ネットワークを立ち上げるなど積極的な活動を展開している。法人全体で実施される研修のほ

か、看護部やリハビリ部では、年間計画のもと各種研修会や研究発表会などが実施され、専門性を高める取り組みがある。自宅復帰後の継続的なリハビリテーション・ケア実施のための情報提供や退院後の情報収集にも積極的に関わり、退院後のリハビリテーション・ケアの継続のため、サマリーの提供や直接指導などを行っている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

医師は個別的なリハビリテーション処方やリスク管理を行い、リハビリテーションの進捗を把握して患者・家族へのきめ細かい説明を行っており、医学的な観点から他職種をサポートするなど、チーム医療の実践に適切にも貢献している。看護・介護ケアマニュアルに看護・介護職の役割が記載され、看護・介護ケア基準が作成されて患者の能力に合わせたケアが行われており、質向上に向けて外部研修などに積極的に参加し、伝達講習会を開催して周知する仕組みがある。各療法士の役割分担は明確になっており、それぞれ標準的な方法により評価に基づいて目標・療法計画が立案され、進捗に応じた見直しや多職種間の情報共有も適切に行われている。社会福祉士は、入院前から患者・家族の背景因子を把握し、入院中に生じた新たな課題に対しても自宅復帰を目指した支援を他職種と協働して行っている。管理栄養士は標準的な栄養スクリーニングと評価に基づいて、病態やリハビリテーションの進捗に応じた食事提供、退院後に継続可能な栄養情報提供や患者・家族への指導・支援を適切に行っている。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院時に多職種による合同評価が行われており、初回カンファレンスで各職種の評価や計画が共有・検討され、リハビリテーション総合実施計画書に反映されている。医師による患者・家族に対する説明では、同席する看護師や社会福祉士が補完的な役割を担っている。医師からの個別的な指示に基づき、リハビリテーションが提供されている。病棟生活における活動性の向上に対して、看護・介護職と療法士が協力して取り組んでいる。リハビリテーション・ケアの進捗は、電子カルテを活用して最新情報が多職種で共有される仕組みを構築しており、プログラムやリスク管理の更新は履歴を含めて代行の療法士が確認可能であり、高く評価できる。リハビリテーションカンファレンスを中心に、多職種で定期的なリハビリテーション計画の検討がされている。

介護能力の評価や症例により写真を利用した家屋状況などの情報収集を行い、課題を明確にしているが、ICFの活用へ向けた取り組みを期待したい。職種ごとに作成される退院時サマリーや診療情報提供書、栄養情報提供書等を情報提供に活用しており、患者に対するアンケート調査や事業所からの聞き取りを通じて、自宅退院後の情報を収集する取り組みを開始している。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅲ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	II
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	II
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	II
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	II

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅱ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	I
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ